

いきいき通信

発行 (株) 愛農流通センター
 あいのう消費者の会 いきいき通信編集部
 知多郡東浦町緒川下出口22-1
 FAX (0562) 84-2352
 ainou_ikiki@yahoo.co.jp



発酵タンクにはありがたいの文字が。

「すべての基準は、世界中の子供・子孫にとってよいかどうか」。これが、経営理念です。日本で最初に「白だし」を開発した唯一の有機白しょうゆ醸造メーカーで、こだわりの厳選素材を使用しています。

こだわりは、材料だけでなく製造工場・社員教育にもたくさんありました。まず、徹底的な社内清掃から始業し、醸造タンクには大きく「ありがたい」と書かれています。

次世代まで考えた商品づくり 七福醸造(愛知県・碧南市)

碧南にある「七福醸造」さんをご存じでしょうか? 愛農とは、取引のないメーカーですが、経営理念が愛農と通じるものがあり「商品も大変おいしい」という情報をいただいたので、編集部一同で初めて見学に行きました。



白だし料理を試食しながら、犬塚会長と懇談。奥(左)が会長。

「物づくりは、人づくり」とのこと、1000キロ歩け歩け大会」を1996年から毎年開催されています。

その他にも、白だしを使った心のこもった昼食をいただきながら犬塚敦統会長から、「今、苦しいのは何を教えようとしていいのか考えるべき」、「ピンチのたびに感謝の念が深まる」、「考えは行動のブレーキ」等、時間が許せばいつまでも聞いていたいお話をいただき、参加したメンバーは皆、おなか・頭、そして心まで一杯になることができました。笑顔いっぱい白だし幸場(工場)「ありがたいの里」でした。(K)

※同社では一人から工場見学を受け付けています。問い合わせ・申し込みは同社ありがとうの里見学係りまで(電話0566-411508)。

消費者に聞く! 今月のテーマ「我が家のひな祭り」

★自分の子供の頃のエピソードですが、私は二人姉妹なので、雛祭りには二人揃って着物を着せてもらい、お雛様の前で記念撮影。そのあとなぜか、カラオケ大会。着物を着ると、演歌歌手気分だったのが気持ちよ〜く歌っていた記憶があります。(Fさん)

★お雛様を飾るとき、関西風に飾りたい私は男雛を左(向って右)に女雛を右(向って左)に、が正しいのだけど年に一度の事、いつも混乱します。反対に並べたところ関東風になるだけだから、と自分を慰めつつ、大して確かめせず飾ってしまいます(笑)(Nさん)

★雛人形は娘が生まれてから実家から持ってきました。第1子の私が生まれたときに祖母が買ってくれたそうで、おかつぱ頭の本目込みでとてもかわいい顔をしていて、大きなガラス棚に入れて飾りました

(年代がわかる?!)。母は多忙でいつも私が出し入れしました。しまうのはかなり日にちが過ぎた後でしたが、人並みにお嫁に行けました。心の広いダンナ様とお雛様に年に一度?! 感謝しながら飾ります。(匿名希望さん)

★私の母はひなまつりと七夕はひと月送らせて祝ってくれました。合理的ですし、春休み、夏休み前半を楽しく準備して過ごせました。上新粉に砂糖を混ぜて、熱湯でこねて、みんなでわいわい楽しくおこしものづくり。ひな壇の下に入ってくれんぼ(ひな人形が落ちて怒られました)。今のような屏風でなく、御殿を組み立てたので、母が組み立てる横であれこれ部材を探して渡すのも面白かった。御殿にはお内裏様一対十三人官女を入れました。(Hさん)

※来月のテーマは「お花見」です。おすすめスポットやお花見に持っていくものなど、あなたの「お花見」を通信欄で教えてください。

読者からのお便りコーナー

◎ゴーバルさんのパーティや愛農さんのBBQ、楽しそうで行ってみたいのですが、アルコールは出ているのでしょうか? 場所が公共交通機関では行けそうもないし、車で行くのにアルコールが出ているのが気になります。病気で車に乗せてもらうばかりの身になったので、余計に気をつけてしまいます。(Mさん)

(編集部から) 愛農に聞いてみたところ、「ゴーバルさんの春の試食会、愛農のBBQ、収穫祭などは、アルコールが出せる場所であれば用意しています。公共の交通機関で来れない場所の場合は、皆さんハンドルキーパーさんを決めて飲食しておられます。中には、ご主人は飲めなくて、奥様が飲んで帰られる方もチラホラいらっしゃいます。今のところ、会社として規制やお約束などはしておりませんので、大人の判断でお任せをさせていただきます」(江端社長)とのことでした。

◎「今週のレシピ」に載っていた「抹茶とあずきの簡単ケーキ」を作って集まりの時にしたら、皆さんに好評でした。二回目はゆであずきの量を二割増しにしてみました。ずぼらな私は二種類の生地を作らなくても、一種類の生地にまとめたらどうなるだろうと思っています。失敗を覚悟で一度やってみようと思います。(Iさん)

(編集部から) 一種類の生地で作る方法は、いかがだったでしょうか? 皆様もお気に入りのレシピがあったらお知らせください。

本の玉手箱

ささきますみ

「バルサの食卓」 上橋菜穂子・チーム北海道 新潮文庫 552円(税別)

以前こちらで紹介した、「獣の奏者」の著者(児童書とはいえ、大人も面白い!)が書いた、「精霊の守り人」という長編シリーズ。守り人シリーズは、ファンタジーなのに、主人公が中年の女性で、異色の面白さです。この物語の中に出てくる創作料理がどれもおいしそうで、この料理を作ってみてしまったのがこの本。写真、レシピ入りで、味覚から物語の世界へ誘ってくれます。皆さんも守り人の世界へ入ってみませんか。

わが子が愛農高校に入って⑥
 まるで一つの家族?! 校内に住む人々

驚くのは、校長先生はじめ半分ぐらいの先生は、ご家族と共に校内のあちこちに住んでいらっしやることだ。このため愛農高校には、生徒と先生、職員、牛豚、にわとりだけでなく先生の家族、先生のペットの猫や犬、それにロバや羊までいる。生徒は先生の家の犬の散歩をしたり小さい子供と遊んだりもする。ぜんぶが一つの家族である。

七十人弱の生徒を先生の家族まで入れると大人が四十人位、愛農が丘にいて生徒を見守る。保護者からみると生徒二人に先生一人、高校生の寮生活で心配だらけだけど、この手厚さで任せようという気になる。

しかし、丘は広く生徒がぞろぞろ動くのは下校の時ぐらい、大抵一人である。仲良くないからでなく、当番の仕事や趣味がいろいろありすぎるのだ。先生が見張りをしなくてもそれぞれ責任をこなし、時間になるとどこからともなく集まってくる。

それが愛農高校の生活だ。親が学校に行っても、農場管理や委員会だからといってなかなか話をする暇がない。うちの息子、こんなに責任感強かったかな?と思うが、少しの人数ですべてをこなそうとすると、やらざるを得ない。任されていて代わりがないから確実にやる。大人の世界では当たり前だが、高校生が当然のこととしてこなしているのはすごい。卒業生がどの分野に行っても即戦力になるのは、この責任感だろう。(丁)(終)

編集後記 「ありがたいの精神のすごい会社があるよ」と友人から聞いていた七福醸造に、編集部で見学に行ってきました。駐車場に入ると、案内役の社員の方が駆け寄ってこられ、お出迎えしてくれました。工場内では、従業員の方たちは作業の手をとめ、体ごとこちらに向き直って、笑顔で「いらっしゃいませ」とあいさつしてくれました。帰りは私たちの姿が見えなくなるまで、犬塚会長自ら見送っていただきました。心のこもったあいさつというのは、なんと心地よく、安心感をもたらすものなのでしょう!! 今一度、自分はそんなあいさつができていないか、振り返ろうと思いました。(じ)